

1. 2019 年度報告

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連) ー 2020 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施状況 ー
トピック例： ①大学入学共通テストの導入に向けた検討状況 ②一般入試に代わる入試の検討状況 ③入試広報の展開状況
① 2020 年度入試改革の状況 2020 年度一般入試・帰国生入試において、2 次試験（面接）を廃止した。それ以前には 1 次試験（3 教科、早稲田会場・本庄会場選択可）で合格した者は改めて数日後に 2 次試験（面接、本庄会場のみ）を受け、さらに入学手続きに本庄学院に来校する必要があった。特に地方出身者や帰国生においては、2 次試験や入学手続きのためにわざわざ遠路から本庄に最大 3 回来る必要があり、このことが本校受験を敬遠する要素になっていたのではないかという判断からである。 また、2020 年度入試より、願書を Web 化した。このことにより、事務処理作業が大幅に軽減された。 ② 入試広報の展開状況 入試広報活動は、例年のように「本校主催の学院説明会」「塾や予備校主催の説明会」「海外日本人学校向けの説明会」の 3 カテゴリーで実施した。学院説明会は例年同様 3 回だが、今年度は初めて対象を地元中学校に特化した説明会と希望があれば中学校に出向いての説明会を開催した。海外説明会はアメリカコースと欧州コースに参加した。女子寮がまだ定員の半分程度しか満たされておらず、説明会では寮の存在と魅力とを強調して PR した。 (2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連) ー グローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み状況 ー
トピック例： ①カリキュラムの体系化に向けた改革 ②持ちコマ数削減に向けた取り組み ③ 教員採用に関する取り組み（公募制、テニユアトラック制の導入）
① カリキュラム改定の取り組み 2022 年度の新指導要領施行に向け、新カリキュラム検討委員会を中心に精力的に検討を行った。限られたコマ数の中で教育効果が高いカリキュラムである事はもちろんであるが、本校の大きな特色である卒業論文を軸とする探究活動やキャンパスの利用などと有機的な関連付けが求められる。 ② 卒業論文指導の強化 GEC アカデミックライティングセンターの協力の元、「テーマ設定」「パラグラフライティング」「知的所有権への配慮」をテーマに 3 年生に対して 3 回の講座を実施する事ができた。また、かねてより「テーマ設定は 2 年時からが望ましい」という意見があったのを受け、2 年時に一度講座を実施する事ができた。 生徒に評価の基準を明確にするとともに論文の書式のイメージを作るため、今年度より優秀卒論を集めて冊子化する事とした。 その他、卒論マニュアル作成、担当教員による指導・評価体制、慶應湘南藤沢との合同卒論報告会等については従来通りである。

③ 学部推薦選抜制度の充実

本校の大学学部推薦は学院 3 年間の総合点に卒論の評価を加えたもので判断していたが、一芸に秀でた者・モチベーションの高い者の推薦を目的として、各学部・学科・専修の 1 割を超えない生徒を多面的評価で推薦する制度（G 選抜）を 2018 年より開始した。2018 年度の反省を踏まえ、2019 年度も実施したが、応募者数・推薦者数ともに 2018 年度よりも減じた。PR も含めた制度の検討が求められる。

④ 国際交流プログラムの充実

例年のように Mahidol Wittayanusorn School（タイ）、National Junior College（シンガポール）、Hana Academy Seoul（韓国）、蘇州中学（中国）との生徒訪問・生徒受け入れの交流が行われた。修学旅行では、台中市立第一高級中学（台湾）、安養外国語高等学校（韓国）、北京大学附属中学校（中国）を訪問し、交流活動を行った。

SGH 最終年度であり、National Junior College（シンガポール）、SMA Negeri2 Yogyakarta（インドネシア）を招聘し、SGH 課題研究発表を中心とした学術交流ウィークを 10 月 30 日～11 月 2 日の期間で実施した。このような高校生シンポジウムのホストスクールとして、関わった生徒たちにおける教育効果は高いが、ポスト SGH 後にこのようなプログラムをどう継承させていくかは今後の課題である。

⑤ 地域連携プログラムの充実

2012 年度より本校の河川研究班（毎年希望者を公募し、10 名ほどで構成）は本庄市内藤田小学校と連携し、本庄市内河川調査と環境保護活動を行っている。また、藤田小での 5・6 年生の総合学習で科学や環境を理解することを目的とした授業を年 10 回ほど展開している。今年度も同様に実施した。

2018 年度より本庄プロジェクト推進室の協力により、本庄市内小学校で学院生が授業を行うプログラムが始まった。参加生徒は公募している。今年度も同様に実施した。

本庄市の依頼により市民総合大学（ジュニアの部）では、茶道部と河川研究班が授業を担当した。神川町の小学生と早稲田大学国際教養学部留学生との交流プログラム「グローバルキャンプ in かみかわ」では 4 名の学院生が通訳を務めた。

⑥ キャリア教育の充実

大学学部進学後のミスマッチや将来を視野に入れた上で学部選択をするきっかけになる事を目指し、2018 年度より月 1 度、土曜日放課後を使い、本校 OB/OG を招待してキャリア講座を開講している。従来、夏に大学教員による最先端研究の講座を中心とした「サマーセミナー」、冬に OB/OG を招いて「ウィンターセミナー」を開催していたが、「日常的に将来について考える習慣を身につけさせたい」として、行う事となった。

今年度は、サマーセミナー・ウィンターセミナーにおける学院生の参加率が悪い事を考え、これらを 9 月中 2 回の水曜日・土曜日に集中して行う「秋のキャリアウィーク」を行う事となった。月 1 度のキャリア講座はそのまま継続している。結果として、秋のキャリアウィークを開催した事は参加学院生の増加にはつながらなかった。また、月 1 度の講座も 2018 年度よりも参加者が減少した。理由を精査し、PR 方法などを検討する必要がある。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み状況 －

トピック例：

- ①SGU7 拠点との連携状況 ②教員の研究時間確保に向けた学術院としての取り組み状況
- ③研究成果発信（主に海外向け）の取り組み ④附置研究所との連携状況

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み状況等 －

トピック例：

- ①英語学位プログラムの進捗状況 ②海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについての検討状況

① 留学提携校の拡充

2018 年度に 1 年間留学をしても高校 3 年間で卒業できる「第 2 種留学」制度を作った。が、必ずしも留学希望者が増加している訳ではない。

今年度、Education New Zealand(ENZ)、アメリカ KENT School との留学協定を結んだ。特に ENZ では個人の目的に沿ったフレキシブルな留学内容がカスタマイズできる事が魅力で、留学生増加につながることを期待している。

Hana Academy Seoul（韓国）との相互短期留学生交換を行った。

② 留学マニュアルの整備

留学推進を図るために、留学マニュアルの整備を行った。



2019 年 11 月海外 2 校を招へいしての SGH 学術交流ウィークにおける研究発表

2. 2020 年度計画

(1) 入試関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 1 関連) ー 2021 年度を見据えた各学部・研究科における入試制度改革の実施計画 ー
トピック例： ①大学入学共通テストの導入に向けた検討状況 ②一般入試に代わる入試の検討状況 ③入試広報の展開状況
① 2021 年度入試に向けて 2020 年度一般入試・帰国生入試において、2 次試験（面接）を廃止した。これはかなり大きな変更であった。この影響を分析し、2021 年度入試に活かす。 今更言うまでもなく、入試はミスが無く会場による環境の差がないようにすることが必要である。本校の入試は、本庄会場と早稲田会場の 2 カ所で長く実施してきた。しかし、両会場は距離があるため連絡が難しく、気候や交通状況にも差異が生じる可能性がある。また、本庄会場は 1 教室 40 人程度の受験生しか対応できないため、監督員を多く割かなくてはならない。この状況は、受験生が増えている中で効率が悪い。このような状況に鑑み、本庄会場をやめ早稲田会場 1 つで入試を実施することの検討を始める。 ② 入試広報の効果的展開 入試広報活動は、例年のように「本校主催の学院説明会」「塾や予備校主催の説明会」「海外日本人学校向けの説明会」の 3 カテゴリーで実施する。学院説明会では 2019 年度同様、3 回の説明会に加え、地元中学生に向けた説明会を開催する。特に梓寮（女子寮）の PR 方法を検討するとともに、寮生活の魅力作りを行う。
(2) 教育関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 2、3、4 関連) ーグローバルリーダー育成にむけた、各学術院・学院・学校における取り組み計画ー
トピック例： ①カリキュラムの体系化に向けた改革 ②英語学位プログラムの進捗状況 ③ 持ちコマ数削減に向けた取り組み ④教員採用に関する取り組み（公募制、テニユアトラック制の導入）
① カリキュラム改定の努力 2022 年度の新指導要領施行に向け、新カリキュラム検討委員会を中心に精力的に検討を行い、完成を目指す。 ② 卒業論文指導の強化 2019 年度同様、卒論指導の強化を図る。 ③ 学部推薦選抜制度の充実 ミスマッチが無くモチベーションの高い学院生を学部推薦することを目指し、今までの反省を踏まえ、多面的学部推薦制度（G 選抜）の効果的な実施を目指す。 ④ 国際交流プログラムの充実 従来通り実施するが、特に 2019 年度に終了した SGH の遺産をどう継承させていくかについて検討を行う。 ⑤ 地域連携プログラムの充実 本庄プロジェクト推進室・本庄市との連携のもと、2019 年度同様地域連携プログラムを実施する。

⑥ ミスマッチの無い学部進学と将来展望

2019 年度より新しい試みとして実施した「秋のキャリアウィーク」、2018 年度より実施している月 1 度のキャリア講座の参加率が悪かった理由を分析し、参加学院生を増やす努力をする。例年、大学各学部の協力のもと実施している学部説明会についても、各学部との連絡を密にし、学院生一人一人が学部で何を学ぶか・どんな未来を描くかをイメージした上で志望することにつながるような説明会を目指す。

⑦ 新体育館が広げる本庄学院教育の可能性

2020 年度より新体育館の使用が可能になる。体育の授業や部活動の充実につなげる努力をすることは当然であるが、イベントへの利用、地域への開放など本庄学院教育の可能性を広げるべく、施設運営の方向を検討する。

(3) 研究関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 7、9 関連)

－ 研究の国際展開のための戦略策定に向けた取り組み計画 －

トピック例：

- ①SGU7 拠点との連携状況 ②教員の研究時間確保に向けた学術院としての取り組み状況
- ③研究成果発信（主に海外向け）の取り組み ④附置研究所との連携状況

(4) 国際関連 (Waseda Vision 150 核心戦略 8 関連)

－ 派遣留学、留学受入促進に向けた環境整備への取り組み計画等 －

トピック例：

・海外での学習経験をカリキュラムに組み込むことについての検討状況

① 留学生を増やす・興味を持つ生徒を増やす努力

2019 年度に Education New Zealand と協定を結んだが、特に New Zealand の中で留学対象校との協定を結ぶ努力を行う。

② 留学受入促進への努力

2019 年度は留学生受入が 1 名である（台湾から）。学内の内規では年間最大 3 名を受け入れられるが、学院生たちの国際化感覚を間接的にでも増やすために、増える事が望ましい。一つの理由として、本校には英語の Web サイトやパンフレットを有していないため、海外の生徒に情報が伝わりにくい事が考えられる。2020 年度は学校の広報も兼ね、保護者会と相談し、英語の Web およびパンフレット作成に取り組む。

以 上